

2023年ヒラメ稚魚分布密度調査結果（太平洋）について

当研究所では太平洋における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を1999年から行っており、2023年は7月25日、8月25日、9月21日に桁網（水工研Ⅱ型）を用いて三沢市沖8点で行いました（図1）。ヒラメの分布密度は桁網の漁獲効率を0.28とすると9-257個体/1,000m<sup>2</sup>の範囲にありました（表1）。採集したヒラメの全長組成は、7月25日に水深5mと7mで30-49mm、8月25日に水深5mと7mで60-69mm、9月21日に水深5mで100-129mm、水深7mで100-109mmが主体となっていました（図2）。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、2023年は193（表1）で、1999年以降の平均値58を上回り、過去3番目に高い水準でした（図3）。

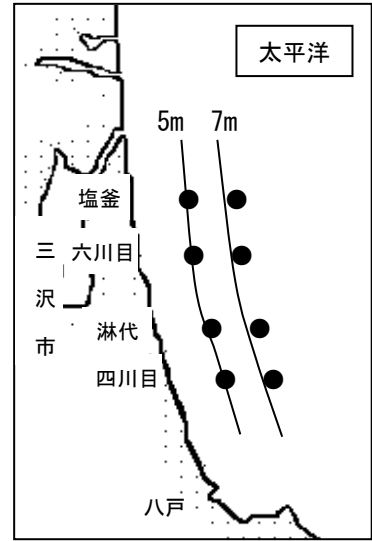


図1 調査地点

調査月日/調査点	水深 5m				水深 7m				平均 (個体/1,000m <sup>2</sup> )	
	四川目	淋代	六川目	塩釜	四川目	淋代	六川目	塩釜	5m 平均	7m 平均
2023. 7. 25	148	232	257	138	129	90	82	87	193	97
2023. 8. 25	32	73	41	27	26	121	60	72	44	68
2023. 9. 21	36	20	9	17	16	9	17	9	20	13

\* 桁網の漁獲効率を0.28として算出した。

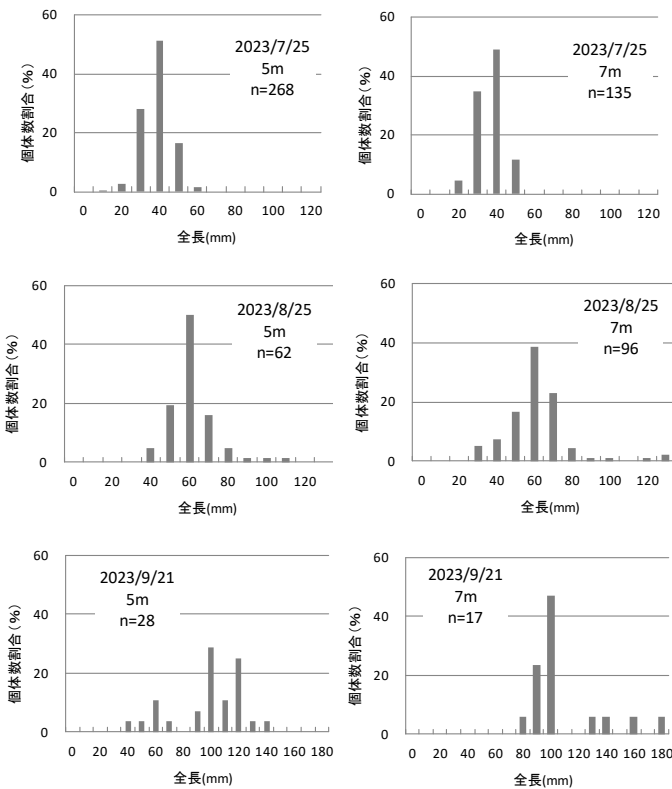


図2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

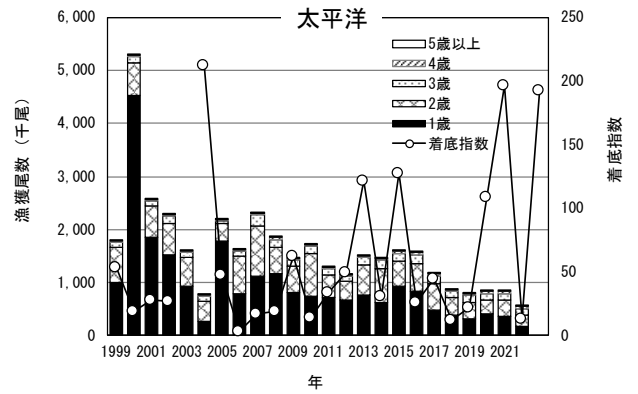


図3 太平洋のヒラメ着底指数と年齢別漁獲尾数の推移